

チャノキイロアザミウマ情報第1号

平成22年4月28日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 発生のピーク

JPP-NETを利用したチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク予測日は、中山間部に位置する稲武を除いて5月19日から5月26日となりました(表1、図1)。本年は2月中旬から3月上旬にかけて気温が平年より高く推移したものの、3月下旬及び4月中旬以降低温で、チャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク時期は昨年より4~8日遅いと予想されます。

表1 JPP-NETを利用したチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

	愛西	東海	南知多	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	伊良湖	稲武
第1世代	5/25	5/19	5/26	5/20	5/23	5/22	5/19	5/22	5/23	6/15
第2世代	6/20	6/16	6/23	6/16	6/20	6/19	6/22	6/19	6/24	7/14
第3世代	7/11	7/07	7/15	7/08	7/13	7/11	7/13	7/11	7/15	8/06
昨年の 第1世代	5/18	5/12	5/19	5/12	5/17	5/17	5/15	5/17	5/18	6/9

アメダス平均気温を利用しています。

各地の気温は4月25日までは実測値を、それ以降は平年値を入れて計算しています。

豊橋は、現在のアメダス地点の平年値がないため、アメダス移転前の平年値を用いています。



図1 第1世代成虫の発生ピーク予測日

(頭)

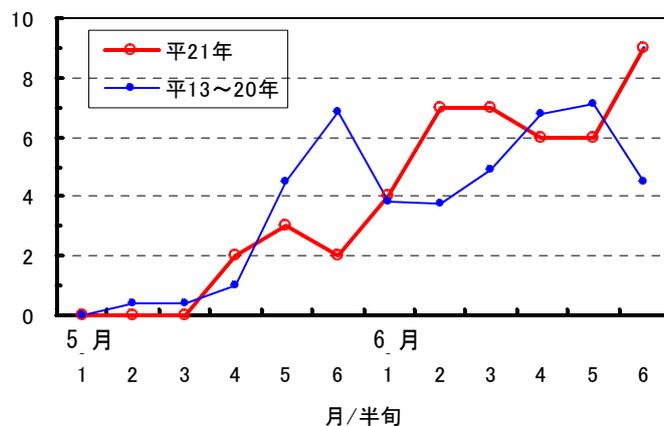


図2 粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの成虫誘殺数(東浦町・ブドウ)

2 防除

ブドウでは例年5月上旬頃から成虫の飛来があり(図2)、5月下旬から6月上旬に幼虫の発生が見られます。カキでは開花期頃から成虫の飛来が多くなります。

チャノキイロアザミウマの防除は、初期発生を抑えることが特に重要です。成虫発生ピーク時の薬剤散布が最も防除効果が高いとされていますので、例年、発生の多いほ場では、表1及び図1から第1世代成虫の発生ピーク日を予測し、薬剤防除を実施しましょう(表2)。

表2 チャノキイロアザミウマの主な防除薬剤と使用基準

作物	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数/使用回数
ブドウ	パダンSG水溶剤	1,500	21日/5回
	アーデント水和剤	1,000	7日/4回
カキ	アーデント水和剤	1,000	7日/3回
	モスピラン水溶剤	2,000~4,000	7日/3回